

令和2年度 舞鶴市総合教育会議 会議録

- ◎ 開催日時 令和2年11月20日(金) 14:30～16:00
- ◎ 開催場所 舞鶴市役所 議会第2委員会室(本館4階)
- ◎ 出席者 舞鶴市長 多々見 良三
教育長 奥水 孝志
教育委員 荻野 隆三
教育委員 岸本 純子
教育委員 富川 唯夫
教育委員 内藤 行雄
教育委員 堀尾 真由美

1. 市長挨拶

2. 報告事項

教育振興大綱事業計画書について
—事務局から報告—(資料1)

3. 協議事項

<協議テーマ>

『ふるさと舞鶴を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子どもを育むための環境
づくりについて』

<論点>

「3つの論点」

- ・ 生きる力を育み、子どもの夢を叶える教育の推進
- ・ 豊かな学びを支える教育環境の充実
- ・ 地域社会で支える教育と子育ての充実

令和2年度舞鶴市総合教育会議

令和2年11月20日 14:30

議会第2委員会室

■市長挨拶

今日は、舞鶴市総合教育会議を開催いたしましたところ、大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、教育委員の皆様には、本市、教育行政の推進に格別なるご尽力をいただいておりますことに、改めてお礼を申し上げます。

さて、平成31年3月、教育委員の皆さんと本市の教育において、目指すべき姿や課題を共有し、十分な意思の疎通と多くの議論を重ねる中で、新たな「舞鶴市教育復興大綱」を策定いたしました。

大綱では、本市が目指す育てたい子ども像を『ふるさと舞鶴を愛し夢に向かって将来を切り拓く子ども』とし、基本理念を「0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」と定めたところであります。

私が市長になりました時から教育というのは極めて大事なものの、国づくりにおいての基本だといつも思い続けておりますが、やはり専門家の皆様はその骨組みを共有させて頂きたいという思いの中で、初めて作られた教育復興大綱は本当に教育の専門ではない私にとりましても、いい教育大綱ができたなという事で喜んでおります。

そして、その一部を部分的に改正させて頂いて、新たな教育復興大綱ができたなと思っております。

こうした中で、日本の少子高齢化が進行し、また、今般の国難ともいえるコロナ禍の中にあって、生きる力を育む教育は、未来を担う子ども達にとって、極めて重要で

あります。改めて、学校と家庭、地域の連携強化を図り、子ども達一人一人を本市の宝として、まち全体で守り育てていきたいと考えております。

本市の取り組みでは、「Society5.0 社会」の到来を見据え、国の GIGA スクール構想に向けた児童生徒の一人一台端末の整備を加速することで、子ども達の学びを保証できる環境の早期実現に努めているところであります。

このように、教育を取り巻く環境が大きく転換していくこの時期において、将来を担う子ども達が生きる力を育むために今後どのような力を身につけさせることが必要なのか、またその力を身につけるため、どのような教育を進めていくべきなのか、教育委員の皆様方と十分な協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、皆様方からの積極的な御意見をお願い申し上げまして、開会にあたり、私のご挨拶とさせていただきます。

■意見交換

(奥水教育長)

市長におかれましては大変お忙しい中、本日の教育総合会議に時間を割いていただきまして本当にありがとうございます。よろしくお願い致します。

この会議を通じて市長、教育委員会、共通理解のもと、舞鶴の教育を進めてまいりたいと考えております。

本日の論点でございますが、振興大綱に掲げられております、育てたい子供像を実現していくために、私たち大人が子供を育てるためにどのような環境づくりを進めていくべきかというテーマを頂きました。

私からは、とりわけ教育環境の充実の中で、いろいろな環境がありますが、その中でも地域社会と子育てについてお話したいと思っております。

少し話がそれるかもしれませんが、東日本大震災のあと、仮設住宅で長く暮らし、

現在では家を建てられ一戸建ての住宅に引っ越しされた方がたくさんいらっしゃいます。そういった方の中で、こんなことを言っておられる方があります。「仮設の方がよかった、楽しかった」というようなお言葉をお聞きしたことがございます。

これは、何を語っているかと言いますと、私の想像ですが、誰でもコミュニティの良さを知ることができ、コミュニティの中で生きていきたいという私たちの本能的な欲求もあるのではないかと思いつつながら、そのテレビ番組を観ていた記憶がございました。

これは、子供はもちろん、我々大人もそうですが、コミュニティの中で育っていくというような視点が一つ必要だと思います。

「子供は環境によって育てられる」環境という要素が子供の成長に大きな影響を及ぼしているという事は、間違いはないと思います。

そんな中で一つの環境というもの、例えば家庭の教育力を含めた教育環境、これは私が言うまでもなく、重要な環境の一つだというふうに考えております。

もう一つ、子供たちに大きな影響を与える環境というのが、やはり社会的な環境ではないかと考えております。社会的な環境が今の子供たちの育ちに影響を及ぼしている、その最たるものは、私は子供コミュニティがなくなりつつあることではないかと思っております。昔はよかったと言うのではなく、私たちの育った子供時代というのは兄弟姉妹も多く、家族は祖父母と同居する、そういう大家族が多くありました。地域では子供たちの姿を見ると年齢を超えて一緒に遊ぶ習慣がございました。これは何を意味しているかという、やっぱり子供には子供同士のコミュニティ、子供の社会がございました。こういった子供が作る社会を子供コミュニティというような名前でも呼んでもいいのかなと考えております。

簡単に言うと近所の子供たちが外で遊ぶ、そういったことが子供コミュニティだと思うのですが、なぜそれが無くなってきているのかという、一つは少子化。一緒に遊ぼうにも近所に子供がおりません。それから時代の流れの中で、子供たちの遊びの中心が、ゲームなどの一人遊びに移行してきていること。他にも塾通いで家に帰って

から遊ぶ時間がないなど、色んな原因があるかもしれませんが、子供コミュニティがなくなってきているという現実は間違いないと思います。

この子供コミュニティがあるおかげで、子供たちはたくさんのことを学ぶと思います。そしてたくさんのことを身に着けることができると思います。例えば集団で遊ぶ中で、仲間とのコミュニケーションを図る力が育ちますし、子供の社会の中でのルール、それから子供のコミュニティではありますが、場の読み方そういったものを身に着けてくるのではないかと思います。

残念ながら、この子供のコミュニティは無くなりつつありますが、無くしてしまったのは子供自身ではありません。社会が変化していく中で、子供たち自身が気付かないまま、子供たちの遊びや育ちの環境が変わってきたことが一つの事実としてあるのではないかと考えております。

この子供たちのコミュニティが無くなったから、子供たち自身で復活しなさいというのは不可能な話だと思います。無くなったのは子供たちが原因ではなく、社会というものが原因です。じゃあ、どうすれば子供たちの大切なコミュニティを復活させることができるかという、私は大人が行動するしかいないと思います。

子供たちにとっての育ちの大きな環境の一つは、大人だと思います。大人と触れ合う中で将来あんな大人になりたいと思えるような大人に巡り合う、それは両親でもいい訳ですし、家族でもいいし、地域の大人であってもいいのですが、大人と触れ合うという事は、子供たちにとっては大きな教育環境なのではないかなと思います。

子供と大人が触れ合う一つのきっかけとして、どんな仕掛けがあるかなと考えると、全国で広がりつつある、「コミュニティスクール」という取り組みがあげられるのではないかと考えています。

舞鶴でも、そのコミュニティスクールの組織づくりは出来上がりました。このコミュニティスクールの取り組みを進めることで、先ほど申し上げた子供コミュニティが

復活することや子供と大人が触れ合うきっかけになるのではないかと考えております。地域の大人たち、あるいはお父さんお母さんが、いろいろな取り組み、作戦を練って頂いて仕掛けを作りながら、まずは大人と子供が触れ合っていく場を作る、そのことが子供の育ちの環境に、大きなプラスになるのではないかと考えております。

ただ、「コミュニティスクール」をすることが子供たちの育ちにとってゴールだという風には考えておりません。取り組みは、進化して育っていくもので、コミュニティスクールに取り組む中で、子育て真っ最中の方も、そうでない方も、多くの方が何らかの形で子供たちの育ちに関わっていく、そんな取り組みができれば理想的かなというふうに考えております。

「コミュニティスクール」ではなく、「スクールコミュニティ」という考え方、学校があることによってコミュニティを形作っていく。そんなところがゴールになっていけばいいと考えております。こういうスクールコミュニティを目指すことが地域づくりと子育て、そして学校も地域もお互いウィンウィンの関係ができ、そして子供たちが健やかに育っていくのではないかなと考えております。そこの視点も一つ大事なのではないかと、考えております。以上です。

(荻野教育委員)

私からは「教職員の働き方」と「コミュニティスクールの果たす役割」についての2点を述べさせていただきたいと思っております。

新型コロナウイルスの感染拡大によって企業などでは、感染防止対策からテレワークやオンラインによる事業が導入され、人々の働き方の変化も起こってきていると言われております。これからの学校教育を展望するときに、教職員の働き方についてこれまでの在り方を見直し、より良く改善できないか検討する機会を与えられているよう

に思います。

学校の教員の働き方については、兼ねてより課題となっていました。特に勤務時間が終わったあと、学校で過ごす時間が長いのが問題とされていました。確かに、このことは労務管理の点からも改善が求められることで、教育委員会としても様々な施策を取って頂き、学校を支援しております。しかしながら、抜本的な解決というのはなかなか難しいところもあるように思います。

時間の削減という事は大切ですが、そのことばかりに焦点を当てると、例えば、教職員研修のような緊急に明日ぜひというようなことではなくても、長い時間のスパンで見たときに、重要性が非常に高いような内容の取り組みが後回しにされ、弱くなってしまうのではないかと心配しております。

そこで、現状から何がカットできるか、また除けるかという考え方から視点を変えて、学校教育において、まず重要で大切にしなければならない事柄はなにか、そしてそのことに関わって教員の働き方はどうなっているか、どう改善できるか、ということを考えていければ教員の働き方について、今後のより良い方向が見えてくるのではないかと考えました。

学校教育において、まず重要で大切にしなければならないことは授業であり、授業の充実を図るということです。その授業の充実のためには、先生が、授業の準備をどのように行っているかという事がかなり重要であると思います。現在の学校の中で、この授業準備を行う時間が、十分に確保できているかどうか。

また、同じ教科の先生や同じ学年の先生方で協力協同しながら、よりよい授業づくりに取り組んでいるかどうか、ということが教員の働き方に関わって非常に大きなことではないかなと思います。経験の少ない先生が、学校に遅くまで残って一人で明日の授業準備を行う事も先生の帰宅時間が遅くなる要因の一つです。時にはそうしたことも、その教員が力をつけてくためには必要な場合もあるとは思いますが、多くの先生方が使っているデータを利用したり、先輩の先生方からアドバイスやフォローを受けたりする体制の中で、この仕事ができれば、より合理的に時間を使うことに繋がっ

ていくのではないかと思います。ICT 機器が学校に整備されましたので、その活用も含めて、働き方について見直し改善する余地は、大いにあるかと思っております。

中学校においては、部活動が大切にされ、私も生徒が自分の興味関心に応じて取り組んでいる部活動においては、生徒の個性を伸ばすという意味でも大切だと思っております。中学校の先生は、その部活動に多くの時間を割いています。私は、そのところにも見直していける視点があるのではと考えました。恐らく、安全管理の面からクラブ担当の先生は、部活動中全てに付き添っているのではないかなと思っておりますが、先生がずっと付き添わなくても部活動が運営できるような体制を作るべきではないかと思っております。

そのためにはまず、生徒たちが自分たちで活動を運営する力をつけることが必要になりますが、それ自体が部活動の目的の一つではないかと思っております。安全管理の面からは、大人の誰かが見守っている必要があります。そこに地域からの支援者が来ていただければ有り難いと考えたりします。スポーツであれば、できればその競技の経験者の方が見守ってくだされば、その競技を通じた世代間交流の場ともなる可能性があります。どの学校にも設置されたコミュニティスクールの「学校運営協議会」が、地域におられる支援者になりうる方と学校を繋ぐ役割が果たせないかなと考えたりします。

学習指導と共に学校が果たすべき大きな教育機能は、生徒指導だと思っておりますが、近年様々な課題が出てきており、教員にとっては時間もエネルギーも必要です。保護者の対応を含めて、緊急性も、重要性も高い内容であって、これからも大切にしていかなければならないと思っております。むしろ、子供と向き合う時間として、一層大切にすることが求められていると考えます。

学校で行われる様々な会議についてはこの間、会議の精選や持ち方の工夫などの取り組みが進められてきました。ICT 環境が整えられた中で、積極的にオンライン会議等を導入して、学校間で行う会議としては、移動のための時間を削減するなど、一層

時間の縮減ができるように取り組んでいく必要があると思っております。教職員研修については、先ほども触れましたけども、言わば学校の将来への投資としての意味合いもあり、大変重要な取り組みであると思えます。

私は、学校で行われる研修も大事だと思いますが、勤務時間外に行う自主的な研修も大切にされるべきだと考えております。道徳教育に関心を持ち、研究したい先生たちが土曜日や日曜日に、学校の枠を超えて集まり取り組んでいます。こうしたことが盛んになっていくことが、若い先生たちにとっての学びの場が豊かになるという事に繋がっていくと思います。例えば、金曜日にそのメンバーがどこかに集まって、研究のための授業を参観して、その次の土曜日に校外のどこかでその授業について協議したり、研究したりしてくという自主的な活動と学校教育の柔軟な結びつきが、これから求められるのではないかなと思っております。

仮定的な話をしてきましたが、教職員の方の働き方については、色々な意見、考え方、アイデアが他にもあると思えます。ぜひ、学校現場においても見直し改善を図ってく様な協議を重ねていって欲しいと思っております。

二点目のコミュニティスクールにおける「学校運営協議会」が果たす役割についてですが、地域の教育力を掘り起こして学校に繋げていくこと、その仕組みとしての役割があると思えます。また、学校と教育、家庭だけがやり取りしていく中に、地域社会が関わってくださることによって、より一層、安定した基盤の中で子供たちの成長を図っていくような取り組みに繋がっていくことを期待しております。

例えば、どこかの学校を指定して、コミュニティスクールとしてどんなことができるのか、実証的に実験したり、検証したりと、その場で明らかになった方法論を他の学校に広めていくといったことも考えられると思っておりますので、また検討いただけたらなと思えます。

以上で私の話は終わります。

(岸本教育委員)

私の方からは3点お話ができたかなと思っております。

一つは、夢と希望についてお話させて頂きたいのですが、事務局から私の質問に対してのお答えもいただいておりますので、それも含めてお話させて頂きたいと思えます。

将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合が、2019年の実績値が小学6年生で64.2%、中学3年生で41.9%となっています。夢や目標を持つ中学生が増えて欲しいのですが、それが数値として5割を切っているというのは、我々大人としてもちょっと不安で、これでいいのかなという気持ちがします。

中学生では、小学生の時のような憧れから自分自身のことが見え、下がる傾向にあるのではないかと、また、国や府も同様の傾向を示していると事務局から背景や理由の説明を受けました。この、自分自身のことが見えてくるとは、どういう風にみえているのか、色々な角度から考えられると思うのですが、もう少し掘り下げて中学生に聞いていただけたら、それに対する対策が練れるのではないかとと思うところです。ぜひ、そういう機会がありましたら、中学生が何をどう考えて夢や希望が持てないのかという事を調べて頂けたらと思っております。

次は、学校教育環境の充実について。

先ほどから学校環境の充実ということで、これからの時代は、当然 ICT 教育は欠かせないツールではありますが、私はこの機械、つまりタブレットやスマホとかの画面から出るブルーライト、少し医学的になるかもしれませんが、ブルーライトの影響を大変心配しております。

このブルーライトというのは、当然自然界にも存在する波長が短くて強い光です。また、このブルーライトは悪者扱いされることが多いのですが、ブルーライトがなければ青いものが青く見えないわけです。例えば、空が青いのは、太陽光線にブルーライトが含まれていることから、我々は空が青いと感じるのです。ブルーライトは、決

して不必要なものではありませんが、現在の科学の発達によって本来、見るはずのない光を至近距離で見る、つまり、至近距離で見るスマホやタブレットの液晶画面から発せられるブルーライトは、人体に与える悪影響が大きいというふうに言われております。

目と言えば、皆さんもよく感じられると思いますが、目が疲れやすく、角膜が乾くデメリットがあります。また、スマホから発せられる大量のブルーライトが、人体の睡眠に関するメカニズムに変調をきたすとも言われております。特に、就寝2時間前以降ですね、寝るまでにそういうブルーライトを浴びますと、寝つきが悪くなることや、不眠症の原因にもなりかねないので、逆効果といえますか、さらに頭の方を覚醒状態にしてしまうと言われるなど、実際、そのような研究もなされております。

これからの ICT 教育では、今は、赤ちゃんの時代からスマホとの関わりがあり、これはもう避けられないわけであります。赤ちゃんが喜ぶますから、お母さんがスマホを見せ、赤ちゃんはそのスマホを触ったりします。赤ちゃんにとって、そのような状況は、至近距離となり、ブルーライトの影響が考えられる非常に近いところからということになります。

そういうことに対して、まず親の教育、そして、保幼小から ICT の教育が始まる中、スマホなど、見ざるを得ない状況が生まれますので、ルールを決め、目や頭脳を保護し、人体にダメージを与えないようにしなくてはならないと私は強く思っております。

ぜひ、舞鶴市では、対策を今から講じて、乳幼児の時にはお母さんにそういう事をしっかり言って頂く、そして小学校では、目を休めることや、寝る前には見ないようにするなどのルールをしっかり教えて頂かないと、将来色々な病気が出てくると私は心配しております。ぜひ、そのような取り組みをして頂きたいと思っております。

もう一つ、ふるさと学習の推進について。

市長のふるさと舞鶴講義は、大変皆さんにも喜ばれており、お忙しいとは思いますが、今後とも続けて頂ければと思っております。よろしくお願い致します。

その他のふるさと学習の様々な取り組みも続けて頂きたいと思います。その中で、まち全体を美しくする活動、色んな地域で行われていると思いますが、清掃活動です。

街中を歩いていますと、雑草等が伸び、特に駅前などが気になります。お世辞にもこのまちは、綺麗で、常に清掃されているとは少し言い難い。場所によっては、住んでいらっしゃる方で綺麗にされているところもありますが、全体を見渡すともう少し綺麗になってくれればとても嬉しく思います。

私どもの地域のことを申し上げると、浜という地域ですが、寺川があって近くに三角公園があり、その川の掃除と公園の草取りですね、昔はそのような活動を子供と親で年に2回ほどやっていたのです。いつからか親だけとなってしまい、子供が参加しなくなったのです。段々と少子化になってきておりますが、子供から大人まで一緒になってまちを美しくするという活動は、地域での関わりもでき、また、まちを愛する気持ちが生まれてくるのではないかと考えております。こういう活動で、まちを美しくしたいなという思いがあります。

以上です。

(富川教育委員)

今回は、豊かな学びを支える教育環境の充実としての ICT 導入について思う事と、2 番目には、いつも非常にお世話になっております市長のふるさと舞鶴講義について述べさせていただきます。

舞鶴市教育振興大綱の中に基本方針②として、「子供を育てる教育環境の充実」があります。そして基本施策の②として、「学校における教育環境の充実」がございます。

これは、日々高度化する情報化社会に対応するために、また教育の情報化を推進するための基盤となる情報通信技術、いわゆる ICT の環境整備とその充実を図っている

ことは、時代のニーズに応えることであります。そういうことから、今年度からの取り組みとして、情報活用能力の育成に向けた ICT 環境整備として、舞鶴市におかれましても、小中学校の児童生徒に対して、一人一台のタブレット端末を配備するという事業がスタートしております。これは先ほどご報告の通りでございます。

今回の事業は、ICT を効率的に組み合わせることで、勉学への意欲を持たせることが可能になっていると思います。基本的なこととしまして、児童生徒自身、児童生徒同士、先生自身、先生同士、または指導する先生と生徒の間に、この取り組みに対しての認識と言いますか、様々な事象について出てくると思いますし、それを共有する必要があると思っております。そういう様々な事象について、十分に配慮した上でこの事業は、推し進めていかなければならないと思っております。

この事業は、まだまだスタートしたばかりでございます。教育現場には、色んな事が起こってくると思います。デジタル的な手法で行われていくのは必須ではございますが、反面、アナログ的な手法も補う点で、必要ではないかと思っております。

この ICT 授業は言うまでもなく決して目的ではございません。手段であることは、ずっと忘れてはいけないと思っております。今回のこの ICT 授業は、いわゆる切れ目のない教育環境、教育の推進にも、学力向上にも、関わっていく大変重要なスキームではないかと思っております。

アンケート調査によりますと、授業がよくわかると回答している子供の回答でございますが、小 6 では平均して 85%、中 3 では 75% という結果が出ております。この ICT の取り組みにより、少しでもこのパーセンテージの底上げができればと感じております。

何事にもそうですけれども、新しい取り組みには、結論ありきということがございますが、長い目で推し進めていくことが大事だと思っております。先ほども言いました通り、いろんな事象が出てくるかとは思いますが、それについては 1 つ 1 つ十分に検証して、それについて十分な対策を行って、子供たちのために、これらを活用して素晴らしい授業になることを願っております。

それから2番目ですが、市長のふるさと舞鶴講義についてであります、これは子供の夢を叶える教育の推進でもありますし、また豊かな学びを支える教育の一貫でもあると思っております。私も毎年楽しみに拝聴しております。公務ご多忙とは存じますが本年度も宜しくお願い致します。

講義についての提案でございますが、お話を頂く内容について、例えば、産業や農業、漁業に絞って頂き、少し掘り下げたテーマで、市長のお考えや熱い思いをお示し頂ければ、子供たちに、具体的に取り組むそういうサジェスション（提案）ができるような内容で、お話し頂ければと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

以上です。

(内藤教育委員)

失礼します。11月17日に文部科学省が、市町村教育委員会オンライン協議という会議を開催致しました。3回に分けて行われ、17日は、私と岸本委員の2人がオンラインで参加をさせて頂きました。

初めてのことなので、どんな質問があるかと色々なことを考えました。私は教育委員3年目ですが、舞鶴市の教育について、そんなに細かいとこまでわかっておりません。ただ、先ほど冒頭で示されました舞鶴市の教員振興大綱、これを細かに見せて頂いて、これに基づいて小中学校でどのような活動が行われているのだろうか、あるいは地域とどのような連携がとられているのだろうか、色々なことを改めて勉強させて頂きました。

冒頭の自己紹介で、舞鶴市の説明をするときに、1つは引揚の話を、それともう一つ、舞鶴市は古いまちと新しいまち、戦国の時代に活躍をした人達が育ったまちと、新たに明治以降軍港として開けたまち、この2つが一緒になったようなまちですと、話をさせて頂きました。分科会ではテーマがありますので、そのテーマに沿って小中学校で行っている活動の内容をお話したところでございます。

とりわけこの教育大綱に基づき、小中学校におきましては、先ほど説明して頂いた通り、一つひとつ豊かな学びを育て、子供を支えていくために、非常にきめ細かな活動が行われております。私は、舞鶴の教育に誇りを持って参加することができたように思っております。

その中で、私は子供を育てる事について、何が必要なのかという事を考えてみました。子供を育てるのに、一番大切なのは、私はやはり環境だと思います。私はスポーツにも関わっておりますが、スポーツをする場合も、その指導者であるとか、あるいは場所であるとか、いろんな条件が合わさって、子供はそのスポーツに目覚め、我が市を代表し、または府を代表し、中には、国を代表するような選手が育っていくのではないかと思っております。

私自身の経験になりますが、私は自分の人生を間違っただけで教員という世界に入ってしまった。と申しますのは、私の生家は商売人でございまして、高校を卒業したら、「あんたはうちの家をお兄ちゃん達と一緒に大きくするのやで」と育てられたのですが、僕の兄が「それは違うぞと、もう、これからの時代は商売なんかじゃないと、大学行って勉強して、違う仕事をしなさい」と、それも高校を卒業する2年生くらいの頃に言われまして、そんな今更、方向転換できないという話になったのですが、その時に私の将来と申しますか、人生を変えて頂いたのが先生でした。

先生にちょっと来いと言われ、「何を悩んでいるのや」と話されまして、「もうする事が無くなったのです」と言いましたら、「なんぼでも道はある、とりあえず、大学に行って勉強しろと、親がだめだと言うのなら、わしが今から家まで行って説得してやる」と言って、家庭訪問をしていただき、そして大学行きを進めてくれました。幸い先生が、私が入学できそうな大学も探して頂きまして、その先生についていけば間違いないなあという経験を踏まえ、知らぬ間に、教員の道に入るように仕向けられていたというようなことがございます。

教員になってからもよく忙しいとか、時間がないとかいろんな事を話します。確か

に今、働き方改革という事で、先生方が大変苦勞されている様子もよく知っておりますけれども、心配な子供と話をする場合、先生が直接、子供を呼べば、まともにしゃべってくれないから、お互い掃除している時に喋ればどうだとか、掃除中に「君は、掃き方が下手やね」とか、そのようなコミュニケーションをとるところから話していくことでいいのではないかということなどです。

また、そのようなお子さんについては、保護者のみなさんも心配しておられます。私が教師の時は、子供がたまに良いことをした時だけ、ご自宅へ報告の電話をしました。「今日、こんなことをしてくれました」と。事実、家庭ではいい子が本当にたくさんおります。

逆に、私の堪忍袋の緒が切れ、家に怒鳴り込んだ時には、その子供は家で、おばあちゃんと畑仕事をしておりました。おばあちゃんと話をしたところ、「よく手伝ってくれるのです、この子のお陰です」というようなことを言われ、それから彼を怒ることはなくなりました。

このように子供を育てる環境も色々あり、家庭も色々です。親を亡くしている、また、毎日のご飯を食べることも大変だ、という家庭もあるかも知れませんが、全く子育てに関心のない保護者もいらっしゃいます。そのような困難な子供たちが、拠り所となる学校、頼りになる学校の先生、子供たちにとって、そんな有難いことはないと思います。

そのような意味から私は、授業の上手なやり方も必要ですけれども、先生が子供を見る感性が大切だと思います。私は、40年近く教員をしましたが、「見てやることが大事」、「じっくり見てあげなさい」と先輩から教えられたことを思い出します。授業中でも、登校時の様子でもわかる。見ていけばいろんな事がわかる訳です。また子供たちは、話をしたければ寄ってくる訳ですが、今、若い先生方は、困難な生徒に寄り添う事が非常に苦手になってきたような感じを見受けることがあります。だからこそ今、先生方に必要なのは、先生方の子供を見る感性を磨く、そういう機会を色んなところで作ってあげることだと思います。また、これは個人的なことなのかもしれませんが、そのような成功例などを伝えていくことも大事ではないかと思っております。

す。

地域との連携によって、子供たちが変わっていくこともありますけれども、一人の子供を育てることは本当に大変なことだと思いますので、先生方の負担がどんどん大きくなる中で、感性を磨いていただき、またそのような機会を大切にさせていただいて子供の成長に役立てて頂ければと、切に思っているところでございます。

話が変な方向へ行きましたけれども、学校が生徒にとって、子供にとって、楽しい場所、安心できる場所、心の拠り所になる場所、そういった学校づくりを、校長を中心に作っていかねばならないということを思っております。

以上です。

(堀尾教育委員)

よろしく願いいたします。今から私がお話しようとしておりました漠然とした不安に内藤先生が一つ希望を示してくださったように思います。

舞鶴市の教育振興大綱では、0歳から15歳すなわち乳幼児期から義務教育期間の教育の充実を謳われておりますが、これは、そのまま基本的な生活習慣や社会的マナーを獲得すべき家庭教育の主要期間であると考えます。

この家庭教育でつけるべき力は、保幼小中で集団生活を送るためには大前提となるものだと考えますが、従来当たり前のしつけと呼ばれていた家庭教育が近年非常に心もとなく感じられます。愛情をかけて育ててもらっていても子供は勿論未熟ですし、親の方も、親としては大概素人で、未熟なので間違いや勘違いがたくさんあります。

いじめは、どんな子にでも起こると言われていますように、いじめとは思わずにいたずらで人を困らせる、相手が困るのを見ているのが楽しい、これは相手が困るのを見ると自分が他人に影響を与えているという快感があって、勘違いした自己顕示欲や

承認欲求に近いものかなと思いますが、問題なく育てているつもりでも、幼い子供には、まま見られることだと思います。ここで相手が反撃をする、親や先生、周囲が注意叱責をするなど、良識を持って育てられている場合であれば、間違っていたという自分に気づいて修正することができます。でも、間違いや勘違いの種は、集団生活の中に沢山あって、その修正をしてはまた間違い、親の方も叱り方を間違い、時には保育士さんや先生方や周囲の助けを借りて教えても勘違い、その繰り返しで成長するものだと思います。

その過程は失敗の連続なので、保護者は幾度となく悩みます。そういう悩める道の途上に関わる事業がこの大綱の中には様々に計画実施をされていると感じています。特に、乳幼児教育ビジョン推進事業とか小中一貫推進事業のいじめ不登校対策事業、あそびあむ、子供に関わる総合的な相談支援事業、トークスクールウィークやお話会などは、保護者として非常に心強く思っております。

家庭の教育力の向上の指標として、地域において子育ての悩みや不安を相談できる人がいる保護者の割合の改善というのが挙げられるそうですが、先ほど教育長が仰っておられたスクールコミュニティもそうですし、この事業が時代によってブラッシュアップされながら、定着浸透していけば、それは十分見込めるのではないかと期待しています。

ただ、悩んでいる保護者や子供であれば、より良い方法を探して地域や行政にアクセスすることや、地域や行政からの提案に敏感であると思うのですが、悩んでいない親子にも間違いや勘違いがたくさんあると感じています。ですので、乳幼児教育とか小中一貫教育とか、悩みのあるなしに関わらず、全ての子供に関係する教育計画を大事に練り続けて頂くことを希望しております。

また、自分に対しても他者に対しても間違いを談じるには、非常に勇気が要りますし、慎重でなければならないのですが、悩んでもいないから相談する気もないというまま間違っていると思われるケースに、どのようにアプローチして行くかが課題だと考えております。

以上です。

(多々見市長)

ありがとうございました。いろいろな視点から様々な意見を頂きまして、いずれもありがたい意見だと感じております。

皆さんが、教育の重要性というのを凄く認識されている中で、私自身は教育のプロではありませんが、教育の根っこの部分の大事な思いを全て網羅し策定することができた「舞鶴市教育振興大綱」は、自己満足ですが、素晴らしい本市の教育指針ができたと自分自身で思っているところであります。

最近思う事は、「親が子供を本当に大事にしていることが、子供に伝わっているのだろうか」ということです。また、極端な例ですが、遊んでから子供を幼稚園へ迎えに行く親がおられ、その子供が「早く迎えにきて欲しい」と言ったら、「お母さんはすることがある」、「お母さんだって遊びたい」と言われ、更にしつこく言うと叩かれるなど、そういうような親子関係の中で、果たして世の為、人の為になるような仕事に就ける子に育つのだろうかというようなこともつくづく思っております。

このようなことから最近、親の関わりがかなり薄れてきていると感じております。昔は何かあった時、自分を守ってくれるのは「この人」だということが完璧に認識できていたわけですが、現在は、子供に関するサービスも多く、色んな人々が分担して関わっておりますので、親の有難さ、親の大切さという原点が気付き難い状況となっていると感じております。

もう一つは、昔は、年が違う複数の子と遊び、同じ年の子と遊ぶことがほとんどなかった訳です。先輩と一緒に遊ぶことで、一番上の子は、下の子にルールを教える。

危険なことをすれば注意するなど、上の子にとってはリーダー研修をしているような部分がある一方で、下の子は、怒られたがお兄ちゃんの行動を見て学ぶほか、上下関係のことも教えてもらうことになります。

このように人間社会の基本で、昔は当たり前のように伝わっていたことが、今はあまりにも分担される部分が多すぎて見失われていることや、親が子供に対して、しっかり怒るべきところは怒る、そして優しくするところは優しくすると、このような重要で当たり前のことを、どのように伝えていけるのかが、私の自問自答の一つです。

また、年が大きくなるにつれ、世の中には色々な人がいて、様々な役割分担がある、自分はこれが得意だが、これは苦手であるなど、中学生くらいになれば、先生や親、周りの人が、その子の普段の姿を見て、「こんな仕事はどうだ」と将来の目標設定をしてあげることが大事であると思います。

子供が、自ら将来の仕事を考えることは難しく、先ほど内藤委員も言われたように、親が「興味があるなら、こんな仕事をすればどうだ」と提案をする中で、「僕やってみたい」と言ったら、「じゃあ、夏休みにその仕事場に一度行ってみるか」と促し、「お父さん、僕この仕事気に入った」と経験を通して子供が言ったならば、「では、この社長さんにどのような勉強をすれば、この仕事に就けるか訊きなさい」という目標設定について、周りの皆が考えてあげることが重要ではないかと思っています。

私の生まれ育った石川県では、志を立てるという「立志式」がありました。これは中学二年生の時でした。そのこともあって、市長の出前講座は、中学二年生を対象としました。私もその時に、親や先生の前で将来こんな仕事に就きたいと目標を立て、精一杯生きる約束をしました。小さい時に野球を始め、プロ野球選手になりたいと思う子はたくさんいますけど、無理だってことがそのうち分かります。ただし、無理だからと言って、それまで運動したことは全く無駄ではなく、体を鍛えることに繋がりと、運動はだめだけど、こんな仕事に就こうという「志」を立てることがすごく重要だと思っています。

コロナ禍で今年、大学1年生になる子が、友達とも会えないし、授業もオンラインで、バイトにも行けない、友達もいないからただ一日ぶらぶらしていると侘しくなり、大学を辞めようかと考えているなどという話を聞くと、残念な気持ちになります。何のために大学へ行ったのか、目標があるなら自分で自主勉強しなさいと疑問を持ちます。

私自身、子供が3人いますけれども、全員が就職氷河期の子です。現在、勤めておりますが、将来、こんな仕事に就きたいとか、この分野に行きたいっていう考えは、高校生の時ぐらいから思っていたのだろうと思います。大学に入った時から目標を立てて勉強していた子には、就職氷河期でも一定勤めることができたと思われますし、逆に、目標無く過ごし、卒業する間際になって、将来の仕事を見つけようとすることは非常に難しかったらと思います。

私は、小さい頃母親に「何で勉強しなければいけないか、わかるか」と訊かれ、「物やお金は取られるけど、自分で身に着けた技術や知識は誰からも取られないので、しっかり身に着けなさい、それは自分を守る鎧となる」と、それからもう一つ、「為せば成る、なさねばならぬ何事も、ならぬは人のなさぬなりけり」という言葉も学びました。この二つを教えてもらったことは、未だに感謝をしております。

親にきっちり育ててもらったという思いの中で、中学3年までにきちっとした目標を持てば、例えそのまに大学がなくても、いわゆる難関大学に通るような高校がなくても、また、一時間くらい通えばあるようであれば教育環境は満点で、やはり中学三年までが勝負だと私は思っています。

以上まとめますと、小さい時に親の有難み、そして色々な人との関わりの中で自分達は、生かしてもらっているという認識をすること、また、皆それぞれ、得て不得手が違い、色々な仕事があり、世の中が成り立っているのだと理解をすること、また、中学生くらいで、先生や周りの方が仕事の目標設定をして、自らが検討していくということが大切だと思っています。

最後に、答えのある問題ばかりを問くのではだめで、答えのない問題をどう克服してくかということが、応用力で、世の中で生きてくために必要な力だと思います。

よく聞くのは、「市長、マニュアルがないのですか」という正職員の新人がいます。私は、「マニュアルは、臨時採用の職員に間違えずに仕事をしてもらうために作るもので、正職員はマニュアルを見る役ではなく、作る役なのだ」という事を伝えます。

いずれにしても、子供たちが生きる力を育むために、温かく地域が見守り、そして大人たちが前向きになれるようにサポートしてあげることが重要で、足りないところは、知恵や努力により、皆さんと協力しながら進めてまいりたいと思っております。

以上